

「だめですーいけません」

岡山県 正眼寺住職 しょうげんじ
土本公祥 つちもとこうしょう

「だめですーいけません」最近、私はこのような言葉が、口癖になっています。その訳は、我が家には、小学校四年生と幼稚園の二人の男の子がいるからです。「だめですーいけません」を言い過ぎて、私はだんだん滅入ってきてしまい、妻と二人「ハァー」とため息をついてしまうあり様です。

気持ちのゆとりがないときには、つい頭(な)しに「だめー」と言ってしまう。そんな時は、子どもたちが猛烈に反発してくるので、日々、悪戦苦闘しております。子どもも「だめですーいけません」に慣れてしまい、心に響いていないようです。

ところで、最近「教育」というものは、学校でつけてもらってもらうもの「と」感じている人が、多いと聞きます。私は、本来子供がもっているものを引き出すのが教育だと思えます。まず、家庭で人間としてどうあるべきか、社会人になるためにどうすればよいのかといったことを、教育を通して子どもに身につけて欲しいと思います。家庭はくつろぐところ、安らぐところであると同時に、社会の規律や思いやりをもつこと、支え合うことなどを教える場でもあります。

仏教には、愛を語ると書く「愛語」の教えがあります。愛語とは「愛のある言葉、相手を思つての言葉を心がけましょう」という意味です。しかし、わが身を振り返ると「だめですーいけません」ばかりで、本当に子どものためになっているのだろうか？と自問自答します。また、人と人とのつながりが、叱ってばかりいることで深められていないのではないかと反省します。「だめですーいけません」と口にする前に、親である私が自分を見つめ直し、慎重に言葉を選ばなければならぬと思う今日この頃です。